

令和6年度第2回平塚市在宅医療介護連携推進協議会会議記録

日 時 令和6年11月28日（木） 14時00分～15時00分

場 所 平塚市役所本館 410会議室 オンライン

出席者

○ 委員14名

内門委員、倉田委員、萩原委員、三觜委員、望月（和）委員、門倉委員、渡辺委員、稲瀬委員、杉木委員、武内委員、田中委員、岩崎委員、望月（真）委員、石原委員

○ 事務局4名

久保地域包括ケア推進課長、鈴木医療・介護連携推進担当長、宮下主査、阿部会計年度任用職員

○ 平塚市在宅医療・介護連携支援センター3名

石井氏、樋口氏、泉谷氏

開 会

1 地域包括ケア推進課長あいさつ

○ 定足数及び傍聴人なし

2 審議事項

<以下、進行は会長>

審議事項（1）令和6年度平塚市在宅医療・介護連携推進事業の前期取組結果について

<事務局>

資料1に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<委員>

春の報酬改定で参加が必要条件となった、自治体、または地域包括支援センターが主催する地域ケア会議、ケアマネジャーが主催するサービス担当者会議等の参加について、薬剤師会からの声だが、会議の時間や回数が少ないのではないかと。ご配慮をお願いしたい。

<事務局>

高齢者よろず相談センターの方に、機会をみて薬剤師の方を呼ぶようお願いしている。今後、そういう機会はあるだろうか。

<委員>

地域ケア会議では、在宅の薬局の方とつながりがあり、講演会をお願いすることはあるが、サービス担当者会議については、薬剤師の方を呼ぶのが申し訳ない気がして、呼べていない状況にある。包括の方で共有して、これから声掛けをしていきたい。

<委員>

私のセンターでは、小地域ケア会議に薬局の方に参加をしてもらい、意見をいただいたりしている。個別のケア会議や必要性のあるところのアセスメントが取れていれば依頼は

するが、そこが支援の方だと管理ができていたりするので、中々依頼する機会が少ないということがある。

<委員>

障がい者も含めた在宅医療に必要な連携を担う拠点の構築についての国の指針について、実現の可能性を検討するとあるが、具体的に教えていただくことは可能か。

<事務局>

国の方の指針は出ているが、県からまだ出ていないので、こちらはどう動いたら良いかという足踏み状態。県から指針がでたら、早めに動きたい。

<委員>

先程の薬剤師のことで。ケアマネジャーの方でも担当者会議で声掛けをということで、今年度に入って一度薬剤師会の数名の方と、居宅連絡会の3名と少し交流をして話をした。

ケアマネジャー側も薬剤師に声掛けをするのが申し訳ないと思っており、逆に薬剤師側もそう思っているところがある。今後積極的に声掛けしていこうという話がなされた。

居宅の連絡会内に浸透していないと思うが、是非連携をしていきたい。

<委員>

平塚保健福祉事務所です。HIV感染者について、受け入れてもらえない施設が多いことが判明したとあるが、実際にこの事例には、私共も一緒に関わり、当所医師と保健師と施設に出向いて説明をさせてもらったり、対応等のところを考えたりした。後期に向けて、啓発をするということで、保健福祉事務所として何かできることがあったら、一緒に取り組んでいきたい。

<会長>

その他、歯科の方の連携はどうか。

<委員>

歯科の方は、基本的には連携が取れていないのが現状。どういう取り組みをしていくかということに関しては、今後の課題だと思っている。

<会長>

では、審議事項（1）については、これで終わりにします。

3 報告事項

報告事項（1）平塚市在宅医療・介護連携支援センター運営について

<平塚市在宅医療・介護連携支援センター>

資料2に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<会長>

連携支援センターにおいて、今年度の相談の中で特に多く見られる傾向はあるか。

<連携支援センター>

包括から入ってくる相談は、ケアマネジャーの後方支援をしている途中、対応策に行き詰ってしまったということで、介護施設や病院の情報がないかという入り口で当センター

に情報収集の相談が入ることが多かった。

<会長>

それでは、報告事項（１）については終わりにします。

報告（２） ひらつか在宅介護生活サポートガイドについて

<事務局>

資料３に基づき、説明を行った。

◎ 意見・質問

<委員>

この研修の一部を担当させてもらったこともあり、事業所内でも時間を取って動画を見て内容をプレゼンして共有を図った。実際に、私が担当した方で先日亡くなられた方に配布をされている。がんの末期の方だったが、その家族が介護者で、今後の病状の進行が不安ということで、急性期の病院を退院する時に退院支援の看護師からこのガイドを渡され、説明を受けた。このような状況だと渡すタイミングがわかりやすいが、看取りに関しての理解が薄い方にいきなり渡すのは難しく、タイミングを図る必要があると思う。

<委員>

10月17日の研修に参加して、事務所内でその共有をしている。実際のパンフレットを見せながら、どういう経過をたどるか、それに対して家族ができること、看護師と一緒にできることというあたりを説明するために活用できるのではないかという意見がでている。まだ実際に渡した事例はないが、死の受容ができていない家族に対しては、医師の説明、家族の反応を関係者で共有しながらどう渡して説明していくかは、検討が必要だと思う。

<委員>

この研修に参加したが、先生の、死に対して、看取りに対しての講演がとてもよく、介護側から見た先生の意見が聞けたような気がした。このサポートガイドに関しては、とてもよくできているが、介護の立場から訪問している方に直接渡すことはないが、一番関わっている介護側が、看護師や医師たちといかに最期の大切な時間を共有するため、どういう形の連携を取ったらいいか、ということは今後の課題でとても重要なことだと思っている。次回、看護師と介護側との看取りに入ったお客様の状況が変わった時に、どのような対応をして接したらいいかというような勉強会を含め、細かいところの研修が出来たら良いと思っている。

<会長>

それでは、報告事項（２）については、終わりにします。

その他

（１） 今後の予定について

<事務局>

次回の平塚市在宅医療介護連携推進協議会は、3月13日（木）、オンラインでの開催時間は15時からとなる予定です。

◎ 意見・質問

<事務局>

歯科との連携のところで、9月5日に行ったひらつか在宅介護生活サポートガイドの多職種向け研修の時には、医師会、薬剤師会、歯科医師会からも多数の参加がありました。今後とも連携の方をよろしくお願いいたします。

<会長>

全体を通して、県から何か御意見やお知らせ等はあるか。

<委員>

まず、本日の審議事項の事業の前期の取組結果について、平塚市の取り組みがしっかりしていて、市だけで進めている形ではないという平塚市のスタイルは良いと思っている。多面的な評価というのが良く、更に昨年度から取り組んでいた「在宅介護生活サポートガイド」について、いろいろな関係機関が一緒になって作ったこのスタイルが平塚市の取り組みの特徴的なところだと思っている。今後実際に活用するために、動画を展開したり、研修をしたりと着実に前に進んでいるところもとても良い。

これが、実際に地域の中で、こういう事例の時にこのような活用をして効果的だった、こういうところが難しかったといろいろな事例を踏まえて振り返り、課題の分析や良いところの積み上げができてくると、もっとブラッシュアップされて色鮮やかなものになっていくのではないかと期待したい。

閉会

以 上